

## ホンモロコ天然卵からの親魚養成とその採卵

氏家 宗二・岡本 晴夫・亀甲 武志

### 1. 目的

県では、近年著しく激減したホンモロコ資源の回復を目的に、平成18年度から天然水域から採集したホンモロコ卵を用い、種苗生産用親魚の確保と卵や稚魚の大量生産を行い、それらを効率的に琵琶湖へ放流する事業を実施している。水産試験場では事業実施に必要な天然卵からの親魚養成（F0）と水産振興協会が実施する大量種苗生産用親魚（F1）に必要な発眼卵の供給を実施した。

### 2. 方法

#### 1) 親魚養成

##### ①天然卵の採集

平成26年4月23日から5月28日の間に琵琶湖北湖の近江八幡市西の湖と大津市小野地先および長浜市海老江地先で、柳の根や藻等に付着したホンモロコ卵を約65,000粒採集した。なお、採集にあたっては遺伝的多様性を確保するため、採集場所と採集回数を多くすることとした。

##### ②ふ化、飼育管理

採集卵は湿った状態でポリ瓶に入れて水産試験場に搬入し、エアレーションを施した30L水槽に收容した。ふ化後は仔魚数を計数した後、外池40㎡3面に放養し、培養ワムシと培養ミジンコおよびアユ餌付け餌料を適宜給餌した。

#### 2) 経年魚からの採卵

平成23～25年度に生産した天然魚を由来とする親魚（3+～1+年魚）からの採卵を4月15日～4月18日と4月25日～4月28日に実施した。産卵誘発のため、飼育用水を採卵一ヶ月前に琵琶湖水（10～11℃）から地下水（15～16℃）に切り替えた。採卵は水面に浮かべた人工基体に自然産卵したものを回収した。

### 3. 結果

#### 1) 天然卵の採集と稚魚生産結果

琵琶湖北湖3ヶ所で採集した天然卵約65,000粒から、28,400尾のふ化仔魚を得た（表1）。池出し約5ヶ月後の生産尾数は約20,000尾（平均体重約2.0g）で、ふ化仔魚からの平均生残率は約70%であった。7A-8号池では、池放養前にコイ、フナ仔魚を選別後放養したが、5ヶ月後のモロコ体型測定時に選別もれの全長約20cmのコイ60尾が混入していた。

表1 平成26年度ホンモロコ天然卵の採集と仔稚魚生産結果

採集月日	採集場所	採集卵数(粒)	池放養月日	池番号	仔魚放養尾数
4月23日	近江八幡市西の湖	約30,000	5月8日	7A-8	15,176
4月25日	近江八幡市西の湖	約10,000	5月8日	7A-8	1,602
5月9日	大津市小野	約10,000	5月19日	7A-12	6,500
5月23日	長浜市海老江	約5,000	6月3日	7A-12	1,483
5月28日	長浜市海老江	約10,000	6月6日	7A-12	3,659

#### 2) 経年魚からの採卵および発眼卵の供給

ほぼ計画通りの採卵が可能であった。

得られた卵は約5日間、2ト水槽に收容して発眼させた後、2,130,000粒を水産振興協会に供給した。また、伊庭内湖での放流実験に454,000粒を提供した。